第 3.1 節　二ヶ領用水と円筒分水

2018 年 8 月　第 6 号

東急大井町線高津駅から府中街道を登戸方面に進み、国道 246 号線を過ぎると府中街道は旧道と新道に分岐します。旧道を進み最初の信号を左折するとすぐコンクリート製の円筒型の分水桶（久地円筒分水）が見えます。上流から来たニヶ領用水の水を 4 つの堀に均等に分ける働きを担いました。しかし久地円筒分水のすぐそばにある流れはかなり低い所を流れています。この流れは平瀬川です。

上流のニヶ領用水は平瀬川の対岸にある大きな水門の向こうです。ここから久世川の下をくぐって円筒分水につながっています。水量が多くなると水門を開き平瀬川に流すことが出来ます。

川崎北部市場を源流とする 1 級河川平瀬川は南側から丘陵を 2 本のトンネルを通じて多摩川に流れ込みます。

またすぐ近くには久地神社があります。「久地」が「籤（くじ）」に通じるとかで、最近は若い人のパワースポットになっています。

二ケ領用水は神奈川県下で最古の人工水路で、関ケ原の戦いの 3 年前に測量が始まり、14 年の歳月をかけて完成したと言われています。この名前は江戸時代に川崎領と稲毛領にまたがって流れていたことに由来します。当時の分水桶はこの用水を四つの水路に分けるもので、あらかじめ計った下流の田畑の必要水量に調節するものでした。

現在の円筒分水は 1914 年（大正 3 年）製で、中央の筒からあふれた水を流すサイフォンの原理を利用した「国の登録有形文化財」です。

「命の水」とでもいうべき川崎を育んだこの用水は何故作られたのでしょうか。地形的に日本でも有数な急流である多摩川は勾配が急なので、江戸時代初期（400 年以上前）は洪水のたびに流路が変わり、当時の村々が度々分断された様です。このため東京都調布市の「布田（ふだ）」、狛江市の「和泉」、世田谷区の「宇名根・下野毛・等々力」等の地名は川崎側にも存在します。また、大田区の「下丸子」は川崎側では「上丸子・中丸子・新丸子・丸子通り」等が有ります。

豊臣秀吉が天下統一を目前にした 1589 年（天正 17 年）や 1590 年（天正 18 年）には、多摩川の大洪水で田畑が流されて村々の境界争いが発生した様です。

1590 年（天正 18 年）に徳川家康が江戸に拠点を置くと、川崎は江戸の暮らしを支える重要な役目を担いました。当時、塩は西日本から江戸に届

けられていましたが、この経路が分断されることを恐れて千葉市の行徳や川崎市の大師河原で塩作りが始められました。そして、お米を初め農作物の江戸への安定供給に必要な農耕用水や飲料用水としての供給が必要になったのです。

閑話休題　国木田独歩（1871～1908 年）をご存知でしょうか。著書「忘れえぬ人々」の冒頭に、こうあります。「多摩川の二子（ふたこ）の渡しをわたって少しばかり行くと溝口（みぞのくち）という宿場がある。その中ほどに亀屋という旅人宿（はたごや）がある。」

描かれているのは、現在の東京都世田谷区から多摩川を渡った神奈川県川崎市高津区溝口で、大山街道が通っています。独歩は渋谷に住み、近くに暮らす柳田国男（1875～1962 年）から亀屋のことを聞いたようです。当時、溝口は風光明媚、独歩の目にも新鮮に映ったのでしょう。

人生を豊かに（雑学の進め）

① この辺りは梅の名所でもありました、JR 南武線の前身である南部鉄道に開通 5 か月後久地梅林駅が出来ました。場所は JR の久地駅との事です。

② ニヶ領用水を下流に進むと、川崎市市民ミュージアムとの間には春日神社と隣接して常楽寺（マンガ寺（川崎市中原区宮内 4 丁目）　本堂の襖にマンガの絵が描かれたから）が見えます。

③ 本文で「命の水」と表現しましたが、晩年の横山大観の「命の水」はブランデーと玉露だったそうです。ブランデーと玉露を交互に飲んで、胃の中でブランデーを玉露割りにしていたらしい。自由な楽しみ方です。

④ 溝の口駅前広場の円筒形屋根は、久地円筒分水がモチーフです。駅前にはもう 2 カ所円筒分水が描かれています。探してみませんか。

⑤ 高津区のシンボルマークを右に示します。2 枚の葉の下に描かれた口のような〇印は円筒分水のモチーフだそうです。なお高津区の木は梅、花はすいせんだそうです。ちなみに神奈川県の木はイチョウ、花はヤマユリ、鳥はかもめ。川崎市の木は椿、花はツツジで川崎駅地下街のアゼリアはツツジの英名です。

⑥ 溝口近くのニヶ領用水沿いはしばしばポケモンの出現箇所（？）となったらしく、スマホを見つめてたむろする若者の集団が見られました。

耳寄り情報

興味深い本を読みました。「漂流するトモダチ　アメリカの被ばく裁判」（田井中雅人　エィミ・ツジモト　朝日新聞出版）です。

福島第一原発事故に際しトモダチ作戦に従事した空母レーガンの組員約 5,000 人は大量の放射線を浴びました。東日本大震災から 7 年が経ち兵士たちは、白血病等様々な病を発症しています。恐るべき被害の補償を求め、元兵士らの原告は 400 人以上に上ります。

アメリカの原告と東電が裁判で争う中、東電は日本での裁判を主張しましたが、2017 年 6 月 22 日に連邦高裁は、アメリカの裁判所での審理を認めた連邦地裁命令を是認する決定を出しました。

一般の人が知らない事実が明らかにされています。詳細は本書でご確認ください。

第 3.2 節　ニヶ領用水のキーマン小泉次大夫　（2018 年 10 月　第 8 号）

ニヶ領用水は関ケ原の合戦の 3 年前に測量が始まり、14 年の歳月をかけて完成したと話しました。二ケ領用水建造を徳川家康に進言したのは、家臣小泉次太夫です。小泉次大夫の足跡は神奈川と東京にあります。川崎側には台和町の「台和橋」（川崎市多摩区生田 2 丁目 19 付近）際に、東京側には世田谷区立次太夫堀公園で、小田急線成城学園前駅から徒歩約 15 分です。（右写真は高津図書館前の「国木田独歩碑」）

今回はこの壮大な土木事業についての話です

多摩川の洪水で苦しむ川崎側と東京側の両地域の開削と新田開発を徳川家康に進言した小泉次太夫は「四ケ領用水」開発の用水奉行に任命されました。「四ヶ領」とは川崎の二ケ領と東京の二ケ領を合わせた呼び名です。したがって彼の足跡も 2 カ所に存在することになりました。

川崎の二ケ領とは川崎領（北東地域）と稲毛領（北西地域）で、東京側は世田谷領（北西地域）と六郷領（北東地域）です。400 年前に世田谷や六郷の名称が有ったとは、驚きです。武蔵小杉の小杉陣屋町に、用水工事の為の陣屋を構えていました。

当時の多摩川からの取水口は「宿河原堰」のある所です。

閑話休題　1974 年 9 月 1 日から 3 日にかけて台風 16 号のもたらした 豪雨で、多摩川が増水し、狛江市では左岸の堤防 が 260 メートルにわたって 決壊 しました。

宅地 3000 平方メートルが 濁流 にえぐり取られ、住宅など 19 戸が流出しました。防災組織は決壊するなら川崎側だろうと待機していましたが、取水堰の影響で東京側に被害が出る結果となりました。自衛隊による堰の爆破が間に合わなく被害が大きくなりました。

テレビで見た住宅が次々と流される光景は今更ながら水の力を想起させ、昔から暴れ川「多摩川」に翻弄された流域の人々の苦労を考えるきっかけとなりました

工事は農作業の合間に鍬（くわ）、鋤（すき）で土を掘り、モッコ（藁蓆（わらむしろ）等平面の四隅に吊り綱を 2 本付けた形状の運搬用具）で運びました。この工事を約 14 年間も続いた辛抱強さには驚きます。

東京側の工事と川崎側の工事は 3 ヶ月交代なので、測量時には大木や寺院・神社等の障害物で、迂回しながらの進行が目に浮かびます。真直ぐな用水路確保は難しかったでしょう。この東京側・川崎側が交代で掘削し、それぞれのニヶ領用水を合わせて「双子の用水」とも呼ばれていました。

宿河原取水口。宿河原堰

関ヶ原の戦い（1600 年 10 月）があった 3 年前の 1597 年（慶長 2 年）、つまり今から 421 年前に測量が始められ、その 2 年後には開削工事に取り掛かりました。完成は測量開始から 14 年後の 1611 年（慶長 16 年）です。

現在の JR 南武線の沿線地域は農村地帯全域に水路が枝分かれするニヶ領用水の完成により、新田開発と相まって農業が大いに発展しました。幹線水路は全長約 32Km で当時の 60 ケ村、約 1876 町歩（約 1760 ヘクタール）に潤いを与えていました。流域の水田に定期的に水が供給される様になると、稲毛・川崎領流域で栽培された「稲毛米」は徳川将軍家に献上されました。二ヶ領用水の完成は江戸住民の米、野菜、果物、塩等の安定供給に川崎は貢献したのです。

しかし新田開発面積が多くなると、取水口が宿河原堰一カ所では賄いきれなくなり、1690 年（元禄 3 年）に上流の菅村の野戸呂島に第二の取水口を設けました。毎年の様に取水口を使用したので破損がひどくなり、東京の六郷用水（次太夫堀）の完成 100 年後には、田中休愚（きゅうぐ）が行った改修工事に合わせて、北多摩群布田小島の僻地から取水出来る様に改修したのが現在の「上河原堰」です。

徳川家康は、関ヶ原の戦いの 3 年前に家臣小泉次太夫の進言を受け入れ、工事着手を決断しました。このことで豊臣家臣まとめ役の石田三成や豊臣家恩顧の大名達に、天下取りの強い信念と自信を示したと言えます。

JR 南武線中野島駅付近から第三京浜道路の多摩川大橋付近までの多摩川沿いに、途中名前を変えながらも「かわさき多摩川ふれあいロード」が有ります。ここではサイクリングや散歩を楽しむことが出来ます。多摩川を見渡して下さい。対岸は東京都市大学世田谷キャンパスが見えます。地名は世田谷区玉堤ですが、多摩川を上流に進むと等々力キャンパスのある世田谷区等々力となります。多摩川を挟んで川崎市側と東京側両方に「等々力」の地名が残っています。この多摩川は現在の第三京浜道路の辺りまでは、縄文時代前期（約 6000 年前）頃は海と思われ、多摩川が海に流れ込んだ所が現在の等々力付近でしょう。現在の地形を見ると、堆積土が膨らみ多摩川が中原区側に大きく入り込んでいたのでしょう。

第二の取水口の位置が諸説有りますが、現在の多摩川の「上河原堰」から、約 1Km 上流にある「菅野戸呂」の地名もあり、最初の堰が「野戸呂島」にあり、暴れ川の多摩川の流れで野戸呂島が消滅して、現在の「上河原堰」が出来たと考えられます。

耳寄り情報　善光寺の元住職が書いた「つもり違い 12 か条」。

子供の頃、50 歳以上はおじいちゃんでした。でも、今は働き盛りですよね。

先日、おもしろいものを見つけました。善光寺の元住職が書いた「つもり違い 12 か条」です。思わずドキッとします。

「高いつもりで低いのが教養」	「低いつもりで高いのが気位」
「深いつもりで浅いのが知恵」	「浅いつもりで深いのが欲望」
「厚いつもりで薄いのが友情」	「薄いつもりで厚いのが面皮」
「強いつもりで弱いのが根性」	「弱いつもりで強いのが自我」
「多いつもりで少ないのが分別」	「少ないつもりで多いのが無駄」
「長いつもりで短いのが青春」	「短いつもりでないのが老後」

第 3.3 節　ニヶ領用水の位置と散策　（2018 年 11 月　第 9 号）

川崎側のニヶ領用水はどこを流れているのでしょうか。その位置は当時とほとんど変わらないようです。今回は開発拠点とされる武蔵小杉とニヶ領用水の流れに沿っての散策ポイントを説明します

1．小杉陣屋

二ケ領用水が川崎市中原区に入ると、用水の近くには「小杉御殿町」、少し離れて多摩川に近く「小杉陣屋町」があります。ニケ領用水工事の指揮監督をした徳川家康の家臣小泉次太夫が武蔵小杉に工事管理の拠点として陣屋を設けたことが「小杉陣屋」の始まりとなっています。一方駿府と江戸を往来する徳川家康の為に、二代将軍徳川秀忠が建造した仮御殿が「小杉御殿」の始まりとされています。将軍が「鷹狩り」（現在のスポーツに相当）を兼ねて民情視察時の休憩所としても使用されました。

閑話休題　東海道が整備されるにつれ、建物は品川の東海寺と上野の弘文院に移築されました。このことから、徳川家康や他の将軍は現在の中原街道を利用していたことが分かります。1590 年の徳川家康の江戸城入りにも中原街道が使われていました。東海道の整備は 1604 年（今から 414 年前で二ケ領用水工事の測量開始 7 年後）から徳川幕府によって行われました。

2．宿河原水取水口から久地円筒分水まで

宿河原取水口への最寄り駅は小田急線・JR 南武線「登戸」駅または、「宿河原」駅です。取水口から南下して JR 南武線と交差する所は、腰をかがめなくては通れないの程の高さですが、通行止めではなく立派な遊歩道が整備されています。この交差点からはほぼ南武線に沿って久地駅に達します。そこで新設した上河原取水堰からのニヶ領用水と合流します。

ここまでの約 2km はよく整備された遊歩道と両岸に植えられた桜の名所になっています。南武線のガード下は第 2 章で写真を掲載しています。また中間点より久地駅寄りに八幡下圦樋口（いりひ）と川崎市の緑化センターが有ります。緑化センターでは苗の販売や栽培展示もあり、公園のような場所もあります。

ここから府中街道に沿って東名高速道をくぐり、久地円筒分水まで流れますが、両岸はコンクリートで固められ、おそらく川底もコンクリートで固められた殺風景な用水となっています。特に見どころもありません。

3．上河原取水堰から久地駅まで

上河原取水堰への最寄り駅は JR 南武線「稲田堤駅」か「中野島」駅です。取水口から南下して中野島中学校当りで旧三沢川と合流します。そこから小田急線「向ヶ丘遊園」駅に向かって山下川と合流しながら、ほぼ府中街道に沿うように進みます。

鶴川街道の多摩河原橋から布田の上河原堰提迄の 2km の堤防は、「稲田堤の桜」が有名で、季節には約 1,000 本の桜が楽しめます。

閑話休題　作曲家古賀政男は母校明治大学のマンドリンクラブの後輩と稲田堤（川崎市多摩区）の花見で満開に咲き誇る桜を背に酒を酌み交わし、帰り道に学帽についた一枚の桜の花びらに気がつき、昭和の名曲「丘を越えて」（歌は藤山一郎）を着想しました。聴いてみると、マンドリンによる前奏が長く、藤山一郎が歌っている時間の方が短いとう、少し不思議な歌ですね。稲田堤に行った際は、お菓子「丘を越えて」を賞味して下さい。

４．二ケ領用水から平間の分水箇所（旧平間浄水場跡地付近）まで

円筒分水は川崎堀、久地堀、六ヶ村堀、根方十三ヶ村堀の４つの堀に分水したものです。久地堀は現在の平瀬川に沿ってほとんど直線的に多摩川へ流出していたと考えられ、多摩川に一番近い（北側を流れる）水路です。今は跡形もありません。その南側の水路が六ヶ村堀で、高津駅の南側を通り、高津区諏訪あたりで多摩川に流出していたと思われますが、ほとんど暗渠で面影もありません。根方十三ヶ村堀は JR 南武線の南側を子母口の方に流れ、中原駅近くで江川に流れ込んでいますが、これもほとんどが暗渠です。一般にニヶ領用水というと神田堀のことで、ここ円筒分水からは再び両側に散策道を備えた水辺が蘇ります。厚木街道（国道 246 号線）をくぐり東急田園都市線と大井町線を越え、ほぼ府中街道に沿って流れていきます。第三京浜道を越えたあたりからはしばらく府中街道沿いを流れます。

等々力緑地の近くになると桜並木が中原区役所付近まで続きます。途中の中原街道を多摩川に向かって北に進むと小泉次大夫の陣屋があった小杉陣屋町になります。JR 南武線を越えると渋川に分流します。東急東横線・目黒線を越えるとよく整備された桜並木が現れます。さらに進むとＪＲ東海道線、ＪＲ横須賀線、ＪＲ南武線と立て続けて線路をくぐります。そして旧平間浄水場跡地付近にある平間の分水箇所でニヶ領用水（川崎堀）は大師堀と町田堀に分岐します。しかしこの二つの堀はほとんど埋め立てられてしまいました。

閑話休題　江戸時代の多摩川の代表的な漁は「鮎漁」で淡水魚なので生育に伴い住処を移動します。毎年９月から 10 月にかけて上河原堰の中野島付近から下流に向かい産卵します。卵は３週間程度で孵化し、流れに任せて海に出ます。そこで水がぬるむ早春まで過ごし、３ 月末頃から多摩川を遡上し、６月から ７ 月に掛けて上流の好適地に「縄張り」を作りながら、石についた苔類を食べて成長して住み着きます。産卵のため川を下る鮎を「落ち鮎」「子持ち鮎」と呼びます。多摩川の鮎は大変品質が高く、大消費地である江戸日本橋の魚問屋に流通し、江戸人の好評でした。

人生を豊かに（雑学の進め）

東海道新幹線は東京駅を出発し時速 160km 前後迄スピードを上げます。しかし、１分もしないうちに減速して多摩川を渡ると左に大きくカーブします。半径 550m という非常に急なカーブで、ほぼ直角に進行方向を変えます。さらに横須賀線武蔵小杉駅の横を通過すると、右にカーブして、ようやく新横浜駅に向かいスピードを上げます。

新幹線は原則時速 200km の走行で、当初の計画ルートでは多摩川をかなり斜め横断していました。しかしこのルートの南武線向河原駅付近には日本電気玉川工場や住宅地が密集していたので、ルート変更を計画しましたが技術的に、またかなりの手間と費用がかかるため計画は頓挫しました。

この状況が変化したのは 1960 年（昭和 35 年）です。当時の国鉄がコスト削減と工期短縮で東京周辺の特例を拡大しました。この特例とは、東京駅から多摩川付近までは時速 200km が出せない区間も良しとするものです。つまり、東京オリンピックに間に合わせる為に、従来の東京都内限定の特例が「多摩川付近まで」と拡大されたのです。多摩川の前後では時速 120km までの減速が必要ですが、所要時間の延長は１分間に見込まれ、全体には影響が無いと判断されたのです。不断の努力により、着工から５年３か月の短期間で 515.4km の高速鉄道が完成しました。新幹線で武蔵小杉の大カーブを通過したら、思い出して下さい。

第 3.4 節　ニヶ領用水今昔と六郷用水　（2018 年 12 月　第 10 号）

農業用水として開削されたニヶ領用水も徐々に荒廃し、100 年後に大改修が行われました。また農地が広がることにより、工業用水をめぐって数多くの騒動が勃発しました。その最大の騒動発生地の今昔と、小泉次大夫が手掛けた東京側の用水に触れてニヶ領用水の最終回とします

3.4 ,1 ニヶ領用水今昔

1）大改修

完成後 100 年経ち荒廃した用水を 1725 年（享保 10 年）に多摩川の治水工事と併せて二ヶ領用水と六郷領用水の大改修が行われました。江戸幕府第 8 代将軍・徳川吉宗の時代です。工事の指揮をとったのは、後に川崎領の代官となる田中丘隅（休愚）でした。

田中休愚は 50 歳を過ぎて勉学に励み、60 歳でまとめた農政・民政に関する意見書が認められ、62 歳で将軍に認められ、「川方御普請御用」に任命されます。その後 68 歳で亡くなるまでに荒川の水防工事、多摩川の治水、ニヶ領用水・大丸用水・六郷用水の改修工事、富士山の宝永大噴火の影響で洪水を引き起こしていた酒匂川の浚渫・補修などを行いました。すごい人が居たものです。

2）溝ノ口水騒動

1821 年（文政 4 年）は激しい干ばつに襲われました。溝口村と久地村の農民たちはニヶ領用水の分流桶を操作し、自らの田畑が潤う様に分流を調節していました。こうした事実を知った下流の 19 の村の農民たちが稲毛領溝口村の名主鈴木七右衛門宅（丸屋）を襲撃した事件です。7 月 5 日川崎領の農民たちは八丁畷（はっちょうなわて）で話し合い丸屋鈴木家に対する打ち壊しなど具体策を決めたそうです。

1966 年（昭和 41 年）当時

この事件現場はニヶ領用水が大山街道と交差する所に設けられた大石橋と、そこから少し北（多摩川より）にある大山街道ふるさと館の中間あたりです。

右の写真は 1966 年（昭和 41 年）当時大山街道を南に向けて（多摩川を背にして）撮影したものです。中央に大石橋があります。その手前の大きな看板のある店が丸屋支店で、その向かい側には丸屋本店がありました。写真は 2018 年 10 月 22 日にほぼ上の写真と同じ位置から撮影したものです。

大山街道ふるさと館は写真の手前右側にあります。

3.4.2 六郷用水（もう一つのニヶ領用水）

小泉次大夫が完成させ、田中休愚による大改修が行われた。東京側のニヶ領用水は現在どの様になっているのでしょうか。用水路の状況により 3 つの区間に大別されます。

1）最上流部の次大夫堀跡（狛江の取水口～仙川水神橋）

狛江市元和泉の多摩川取水口から仙川水神橋に至る区間です。今ではすっかり埋め立てられて往時の姿を見ることは出来ませんが、流路の一部であった区間が、「滝下橋緑道」と「次大夫堀公園」に残されています。

2）丸子川と名前を変えて流路をとどめている区間（仙川水神橋～亀甲山）

世田谷区岡本の仙川水神橋から、大田区田園調布の亀甲山までの区間です。この区間は現在の地図では「丸子川」と表示されていますが、今に残る次大夫堀の流路です。亀甲山のふもとに浅間神社があり、この付近の水門から多摩川に放流されています。東京都市大学世田谷キャンパスの北側を流れているのが丸子川です。第 3.2 節でも紹介しましたが、母校訪問の折は 400 年前の歴史に思いを馳せてください。

3）大田区内の再現水路と六郷用水跡

大田区内では、中原街道から下流側に、東急多摩川線の多摩川駅～鵜の木駅付近にかけて湧水を利用した六郷用水の再現水路が作られています。また、これより下流の用水跡地にも、いたるところに案内板が建てられており、かつての六郷用水の面影が偲ばれます。

4）他の河川との関係

① 野川：用水と合流・分流後二子玉川で多摩川に流出
② 仙川：用水と合流ご世田谷区砧で野川に合流
③ 呑川（のみがわ）：用水と道隆・分流後羽田空港近くで東京湾に流出

人生を豊かに（雑学の進め）

① さあ秋になりました。ちょっと空を見上げてみませんか。子供頃には星空が奇麗に見えましたが、今はなかなか見えません。でも、目を凝らすと見えます。西の空には「夏の大三角」がまだ見え、南西の低い空には火星（-2 等級～0 等級）が明るく目立っています。南の低い空には、秋の星座でただ一つの 1 等星ホーマルハウト（みなみのうお座)、天頂近くには「秋の四角」も見えます。さらに、北側には 5 つの星が W の形に並んだカシオペヤ座を使って北極星を見つけることが出来ます。東の空にはカペラ（ぎょしゃ座）やアルデバラン（おうし座）等、冬の 1 等星も見られるようになります。

秋の四角はカシオペヤ座の下で、うお座とペガスス座に挟まれています。2018 年の天文現象は 1/31 と 7/28 は皆既月食 7/31 は火星が大接近（2003 年以来 15 年ぶり)、9/24 は中秋の名月、12/14 はふたご座流星群が極大（12/14 夜から 15 朝にかけて絶好の観測機会）です。

② 映画監督の宮崎駿の作品では、例えば「風立ちぬ」の有名な話ですが、あの映画に登場する九六式戦闘機や零戦などのプロペラ音を初め、蒸気機関車の蒸気、車のエンジン音等の効果音は、すべて人間の声で作られています。この様な「機械を生命的に見る感覚」は「生の感情」(合理的なモノサシでは測ることの出来ない、生きることの実感）です。

二ヶ領用水と池田家についての追加記事を、第 12 章に収録しました。